鳥取短期大学研究紀要第51号(2005)

〈研究ノート〉

山陰地方の昔話について

酒 井 董 美

Tadayoshi SAKAI : The Old Tales of the San-in district

山陰地方でこれまで収録されてきた昔話を「むかし語り」「笑い話」「動物昔話」に分類し，全国の統計と比較を試みたものである．山陰両県の資料は稲田浩二他編『日本昔話通観』の鳥取編・島根編を基とし，ここに掲載されている「典型話」「類話」「参考話」のすべてを統計的に処理して，全国のトータルと比較している．また，話型についても両県別に集計し，両県を比較してみた．

キーワード：昔話　島根県　鳥取県　山陰　日本昔話通観

1．はじめに

山陰地方の昔話の実態を述べるにあたり，まず，関敬吾氏「民話」(『日本民俗学大系』・10　昭和34年・平凡社)の「種類別・地方別昔話分布表」から，わが国の昔話の分布状況を眺めつつ，近年，稲田浩二氏などによって編纂された『日本昔話通観』を資料に，山陰両県の分布を見ておきたい．

さて，関氏の「民話」では昔話を「動物譚」「昔話」「笑話」と大きく三つに分けている．今から40年以上前にまとめられたものであるこの表では，そのころの島根県での昔話の合計数は688話，鳥取県はわずか71話となっており，全国の合計数では，10,674話に過ぎない．このことは昭和34年ごろの実数であるからやむを得ないが，現在でははるかに多くの数が研究者によって収録されており，このころとは収録数が格段に増えている．ところで，稲田氏の『日本昔話通観』では，昔話を「むかし語り」「笑い話」「動物昔話」と分けている．つまり，関氏の「昔話」を，稲田氏は「むかし語り」，「笑話」を「笑い話」，「動物譚」を「動物昔話」と称しているだけで，内容的には同じといってよい．

そして関氏の文章にはそれぞれに全国合計の話数とパーセンテージが示されているので，それを紹介し，山陰両県の数字については，稲田氏などの努力で昭和53年に発行された『日本昔話通観』第17巻（鳥取編）と第18巻（島根編）を元に統計化したものを表にして比較しておきたい．なお，本来ならその後の収録結果を収めているこの全巻を資料にして個別に統計化し，全国の総計を出すべきであるが，これには作業に膨大な時間を要するため，私としては単独でそれにあたる時間的な余裕がないので，今回は，いささか古いものではあるが，全国的な趨勢を眺める資料に，関氏のものを引用しようとするものである．しかし，傾向をつかむためにはこれでよいと考えている．

なお，便宜上，関氏の「昔話」を「むかし語り」に．同様にして「笑話」は「笑い話」，「動物譚」を「動物昔話」と『日本昔話通観』の用語に置きかえて使ったことをお断りしておく．

念のためにいえば，「むかし語り」の話型としては，「鼠の楽土」「竹切り爺」「取り付くひっ付く」「舌切り雀」「猿婿入り」「瓜姫」などの，隣人が失敗し

たり，正直者が成功するような話など，いわゆる「本格昔話」といわれた一連の話型をいい，「笑い話」は，文字通り笑いを伴った話型で，「和尚と小僧」でくくられる「ぼた餅は金仏様」とか「砂糖は毒」．愚か者の失敗を語る「法事の使い」「牛の尻にお札」など，「動物昔話」は，動物が主人公の「雀孝行」「猿蟹合戦」「餅争い」などの話型をいっている．

山陰両県の収録数について見れば，島根県の3,086話に対して鳥取県はその半分あまりの1,803話となっている．もう少しはっきり数字で示せば，鳥取県は島根県の58.4%になる．なお，『日本昔話通観』に掲載されている典型話，類話，参考話のそれぞれを1話として集計しておいたものである．

〔表1〕を見て気がつくのは，いずれも「動物昔話」の占める割合が，10%台と共通している．そして日本全体では「笑い話」が二番目に高く37.01%であるが，山陰両県では共に「笑い話」が「むかし語り」より高い．こうして眺めれば，山陰両県の傾向は，わが国全体に比べると，「動物昔話」が一番低い割合である点では共通しているが，後の二つの「むかし語り」「笑い話」については，それより上位である点では共通するものの，それらの順位は逆になっているのである．

2．両県内での昔話の分布状況

山陰両県内における昔話の伝承分布状況を，それぞれ三地区別に一覧表にしたのが，〔表2〕と〔表3〕である．傾向としては先に述べたように，いずれも「動物昔話」の割合が一番低い．そして「笑い話」が一般的には「むかし語り」より高いが，隠岐地区だけは「むかし語り」の方が高い．

ここ隠岐地区はもともと人口も少なく，昔話の収録活動も近年になってようやく盛んになったこともあり，収録された話そのものが少量である．

これに対して鳥取県下の三地区は，先にも触れておいたがいずれも，「笑い話」「むかし語り」「動物昔話」の順に，割合が減っている．ただ，三地区を

〔表1〕わが国と山陰両県の昔話分野別分布傾向

項目	日本全体	島根県全体	鳥取県全体
むかし語り	49.55%　(5,282話)	41.57%（1,283話）	37.60%　(678話)
笑い話	37.01%　(3,958話)	48.41%（1,494話）	50.47%　(910話)
動物昔話	13.43%　(1,434話)	10.01%　(309話)	11.92%　(215話)
合計	100%（10,674話）	100%（3,086話）	100%（1,803話）

〔表2〕島根県内三地区の昔話分布状況

項目	出雲	石見	隠岐	島根県全体
むかし語り	41.53%　(434話)	39.90%　(650話)	48.30%（199話）	41.57%（1,283話）
笑い話	48.33%　(505話)	50.95%　(830話)	38.59%（159話）	48.41%（1,494話）
動物昔話	10.14%　(106話)	9.15%　(149話)	13.11%　(54話)	10.01%　(309話)
合計	100%（1,045話）	100%（1,629話）	100%（412話）	100%（3,086話）

〔表3〕鳥取県内三地区の昔話分布状況

項目	東部	中部	西部	鳥取県全体
むかし語り	32.97%（210話）	38.61%（344話）	45.09%（124話）	37.60%　(678話)
笑い話	53.69%（342話）	48.71%（434話）	48.73%（134話）	50.47%　(910話)
動物昔話	13.34%　(85話)	12.68%（113話）	6.18%　(17話)	11.92%　(215話)
合計	100%（637話）	100%（891話）	100%（275話）	100%（1,803話）

比較すると，西部地区の絶対量が他の二地区よりも少ない．これは『日本昔話通観』の編集時点のころまでは，西部地区において収録活動が，それだけ盛んでなかったことを意味している．しかし，それ以後『米子市史』編纂のための調査などで，筆者自身約120話ほど収録したりしており，現状ではかなり追加されているようである．

3．伝承話型の多寡

それでは山陰地方では具体的にどのような話型が好まれているのであろうか．県別に「むかし語り」「笑い話」「動物昔話」に分け，収録数を抽出して多い順から眺めてみたい．なお，地区別にはあえて順位をつけることはしていない．資料数の関係でそこまで細かく見なくても，県単位の概況を眺める方

〔表4〕昔話伝承の多い話型（県別・三区分別）　○内の数字は順位　後の数字は話型数

	島　根　県	鳥　取　県
むかし語り	①※98　鼠の楽土 ②※95　竹切り爺 ③※75　取り付くひっ付く ④※60　舌切り雀 ⑤※55　猿婿入り ⑥　51　瓜姫 ⑦　47　桃太郎 ⑧※45　蛇婿入り 　　45　姥捨て山 ⑩　41　肉付き面	①※33　竹切り爺 ②※31　鼠の楽土 ③　28　食わず女房 ④　26　馬子と山姥 ⑤※25　舌切り雀 ⑥※24　取り付くひっ付く ⑦※21　蛇婿入り ⑧　20　継子と笛 ⑨※19　猿婿入り ⑩　17　笠地蔵
笑い話	①　59　瓶の尻 ②※50　団子婿（物忘れ） ③※43　ぼた餅は金仏様（和尚と小僧） 　※43　こうこ風呂 ⑤　40　法事の使い ⑥　36　砂糖は毒（和尚と小僧） ⑦※28　牛の尻に札 ⑧　27　指合図（和尚と小僧） ⑨※24　馬の落とし物（和尚と小僧） ⑩　20　長い名の子	①※44　団子婿 ②　28　餅は化け物 ③　27　蟹のふんどし ④　25　きじがらす ⑤　18　法印と狐・葬列型 ⑥※17　餅は本尊（和尚と小僧） ⑦※16　牛の尻に金具 ⑧※15　馬の落とし物（和尚と小僧） ⑨※14　こうこうで湯加減 ⑩　13　鮎はかみそり（和尚と小僧） 　　13　旅学問 　　13　捕らわれ狐
形式譚	①※81　天からふんどし（長い話） ②※34　爺じゃない婆だ（短い話） ③　26　話ゃはげた昔ゃむけた（短い話） ④　18　天から綱（長い話） ⑤※12　天からふんどし（果てなし話）	①※10　天からふんどし（長い話） ②　5　竹竿に鳥（長い話） 　※5　天からふんどし（果てなし話） 　※5　爺でねえ婆だ（短い話） 　　5　はなそうか（しまい話）
動物昔話	①※28　古屋の漏り ②　27　雀孝行 ③※23　猿蟹合戦 ④　22　かちかち山 　※22　餅争い	①※39　餅争い ②※32　古屋の漏り ③　25　ほととぎすと兄弟 ④※19　猿蟹合戦 ⑤　17　尻尾の釣り

※印は，両県に共通している話．「ぼた餅は金仏様」（島根）と「餅は本尊」（鳥取）は，違う話型のようであるが，命名が異なるだけで同一話型である．「こうこ風呂」（島根）と「こうこうで湯加減」（鳥取）も同様である．

だけでよいと考えたからである．

また，昔話をやめるおりなどに語られる「形式譚」は，「笑い話」の中に位置づけられてはいるが，語る目的が特殊なものなので，ここでは別個に扱い，収録数の関係でそれぞれ5位までを挙げておくことにした．さらに「動物昔話」についても，同様に収録数が少ないため，5位までにしておいた．

(a)　むかし語り

両県とも10位までを比較してみると，同じものが6話型ある．「鼠の楽土」「竹切り爺」「取り付くひっ付く」「舌切り雀」「猿婿入り」「蛇婿入り」がそれである．そして1位と2位が入れ替わる形である点からいっても，両県ともかなり共通しており，ここから好まれる傾向が似ていることが分かる．

(b)　笑い話

両県で共通しているのは10話型中，5話型であり，共通率は50%である．それは「団子婿(物忘れ)」「ぼた餅は金仏様（和尚と小僧)」「こうこ風呂」「牛の尻に札」「馬の落とし物（和尚と小僧)」である．

(c)　形式譚

5話型中，3話型と60%共通している．「天からふんどし（長い話)」「爺じゃない婆だ（短い話)」「天からふんどし（果てなし話)」であり，1位が共に同じ「天からふんどし（長い話)」である．

なお，下位にも「天からふんどし（果てなし話)」とタイトルだけ見れば同じものがあるが，長い話の方は，天からふんどしが落ちてくる点は共通しているものの，最後に「こっぽし」などの結句がついており，ここで話は終わる．しかし，果てなし話の方は，いつまでも「天からふんどしが落ちてくる…まだまだ落ちてくる…」と，聞き手が「もういい」と話に飽きて語りをストップするよう要求するまで語り続けるという点に違いがある．

(d)　動物昔話

これも「形式譚」同様，5話型のうち3話型と60%が両県とも共通している．すなわち「古屋の漏り」「猿蟹合戦」「餅争い」である．

(e)　総　合

これまで「むかし語り」「笑い話」「形式譚（笑い話の一分野)」「動物昔話」別に，その特色を概観し

〔表5〕昔話伝承の多い話型（総合）　○内の数字は順位　後の数字は話型数

島　根　県	鳥　取　県
①※98　鼠の楽土【むかし語り】	①※44　団子婿【笑い話】
②※95　竹切り爺【むかし語り】	②　39　餅争い【動物昔話】
③　81　天からふんどし（長い話）【形式譚】	③※33　竹切り爺【むかし語り】
④　75　取り付くひっ付く【むかし語り】	④　32　古屋の漏り【動物昔話】
⑤　60　舌切り雀【むかし語り】	⑤※31　鼠の楽土【むかし語り】
⑥　59　瓶の尻【笑い話】	⑥　28　食わず女房【むかし語り】
⑦※55　猿婿入り【むかし語り】	28　餅は化け物【笑い話】
⑧　51　瓜姫【むかし語り】	⑧　25　舌切り雀【むかし語り】
⑨※50　団子婿（物忘れ）【笑い話】	25　きじがらす【笑い話】
⑩　47　桃太郎【むかし語り】	25　ほととぎすと兄弟【動物昔話】
⑪※45　蛇婿入り【むかし語り】	⑪※21　蛇婿入り【むかし語り】
45　姥捨て山【むかし語り】	⑫　20　継子と笛【むかし語り】
⑬　43　ぼた持ちは金仏様（和尚と小僧）【笑い話】	⑬※19　猿婿入り【むかし語り】
43　こうこ風呂【笑い話】	19　猿蟹合戦【動物昔話】
⑮　41　肉付き面【むかし語り】	⑮　18　法印と狐・葬列型【笑い話】

※印は，両県に共通している話型

たが，次にはそれらを一つにまとめて総合的に眺めてみたい．多いものから順に15位までを集めてみた．

それぞれ15位までに占める話型で，両県に共通しているのは，三分の一に当たる５話型ということになる．そしてどのような分野が，15位までに入っているかをまとめてみると〔表６〕のようになる．

ここから両県共に「むかし語り」がトップであり，昔話の中でもっとも多く語られていることが分かる．ただ２位との差で見ると，島根県が「むかし語り」が２位の「笑い話」を３倍あまり引き離しており，また「動物昔話」に属する話型は15位以内に存在していないのに対して，鳥取県の方では「むかし語り」がトップであっても２位はその70％の数量で「笑い話」と「動物昔話」がまったく同じ総数で続いている点に，島根県との違いを読み取ることができる．そして島根県に見られた［形式譚］は，鳥取県では15位以内には存在していないところにも特徴がある．

〔表３〕で分かるように昔話の種類としては，鳥取県でも「笑い話」が昔話の50％あまりを占め，動物昔話は12％にも満たないのであるが，総合的に語られる話型15位までの中で見ると，両者はまったく拮抗しているといえよう．

４．話頭句と結句について

昔話の話頭句と結句については，私のこれまでの収録体験から得たものに『日本昔話通観』（島根編・鳥取編）を一部参考にして，〔表７〕のように両県ともそれぞれ三地域別に分けて，代表的と思われるものを挙げておいた．

そうして眺めると，話頭句では両県でかなり共通しているものに「とんと（ん）昔があったげな」があり，さらに「なんと昔があったげな」や「なに昔あったげな」に類するものが認められる．鳥取県の東部と中部に見られる「昔あるときに」や「昔あるところになぁ」は，あるいは本来は「昔」の前に「とんと（ん）」とか「なんと」か「なに」などの語句があったのが，時代が下るに従って脱落していったのではないかと思われるのであるがいかがだろうか．

また，「とんと（ん）昔が…」で始まる形の意義については，以前，私が『魚屋と山姥』―隠岐・島前の昔話―（桜楓社・昭和55年））に書いておいたものを引用し，説明に代えたい．

〔表６〕昔話伝承の分野順位　○内の数字は順位　後の数字は話型数（　）内の数字は話数

島　根　県		鳥　取　県	
①むかし語り	10話型（612話）	①むかし語り	７話型（177話）
②笑い話	４話型（195話）	②笑い話	４話型（115話）
③形式譚（笑い話）	１話型　（81話）	②動物昔話	４話型（115話）
動物昔話　なし		形式譚(笑い話)　なし	

〔表７〕話頭句の例（県別・概括）

島　根　県		鳥　取　県	
出雲	とんと（ん）昔があったげな（仁多郡・八束郡・飯石郡） なんと昔があったげな（仁多郡）	東部	昔あるときに（八頭郡） とんとん昔になぁ（岩美郡）
石見	なに昔があったげない（邑智郡）	中部	昔あるところになぁ（東伯郡） なんと昔あったところになぁ（東伯郡） なに昔あったところが（東伯郡）
隠岐	とんと（ん）昔があったげな（全域）	西部	なんとなんと昔あるところに（西伯郡） とんと昔があったげな（日野郡）

〔表8〕結句の例（県別・概括）

島　根　県		鳥　取　県	
出　雲	（昔）こっぽし（仁多郡） （昔）こっぽり（仁多郡） 昔まっこう（松江市・八束郡）	東　部	ばっちり（八頭郡） とっぴんぱらりんぷう（八頭郡）
石　見	それぽっちり（大田市・邑智郡） これぽっちりとっくりこ（江津市） けっちりこ（美濃郡）	中　部	（昔）こっぽり（東伯郡） 昔こっぷり（東伯郡）
隠　岐	その昔のごんべのはぁ（知夫村） すっとんかっとんからかっとん（都万村） とん（よ）（西郷町・都万村）	西　部	その昔こっぽり（西伯郡） その昔こんぽち（米子市） 昔こっぷり（日野郡）

優れた語りを残すと思われる知夫村の話頭句は，圧倒的に「とんと昔」であるけれど，他の二町ではあまりこの形が見られず，これと似た「とんとん昔」や「昔」あるいは「昔々」が，はるかに優勢である．昔話は本来，農業神に捧げる神聖な語りであるとする仮定を支持して眺めてみると，「とんと」が神を拝む際に発する「尊」に通じるのに比べ，まるで戸を叩く擬声音のような「とんとん」の場合は，どうしても「とんと」よりも一段後の変化と考えざるを得ない．そして「昔」や「昔々」は，さらに「とんとん昔」から「とんとん」の脱落を見たものと思われる．いっそう省略化が進むと，話頭句そのものが全くなくなった話になってしまうのである．

海士町御波の語り手，浜谷包房氏からうかがったところによると，昭和一七年に五五歳ぐらいで亡くなった同地区の永原安貞氏は「とんとん昔」と語りはじめるおり，必ず拍手をうっておられたそうであるが，このことは本書をご監修いただいた臼田甚五郎先生が，昭和三五年夏の隠岐地方の昔話調査で，島後，都万村の乃木あささん（明治一七年生）から聞き書きされた際，すでに発見しておられる．先生の文章を引用させていただく．

―昔話の神聖感を証する昔話の語り方が，乃木あさ女に伝承されてゐた．伊勢太郎氏（酒井注・乃木あささんの夫）よりも，三才上の田中ソージ氏は，小前のぢいさんと呼ばれて，昔話が好きだった．このぢいさんが昔話を語る冒頭で，〈とんと昔がありました〉と言ひながら，手を拍って始めるのであった．あさ女もさうして見せるのであった．まさに，とんと昔のとんとが〈尊と〉であることを思ひ知らされる．―「隠岐の口承文芸の宗教的社会的位層に関する調査の一節」（昭和35年『国学院雑誌』第61巻，第2・3号）

一方，結句の方は，比較的広範囲に共通して見られる「こっぽし」「こっぽり」を除くと話頭句以上に変化に富んでいる．

島根県では，出雲，石見，隠岐それぞれに次のように特徴のあるものが見られ，はっきりと地域性が出ている．

出雲地方……　昔まっこう
石見地方……　これぽっちりとっくりこ，けっちりこ
隠岐地方……　その昔のごんべのはぁ，すっとんかっとんからかっとん

また，鳥取県においては，島根県ほどの地域差は見られない．ただ，昔の因幡地方である東部と伯耆地方に属していた中部と西部では，それなりの違いを見せているようである．すなわち，東部では「ばっちり」や「とっぴんぱらりんぷう」が変わっており，あまり「こっぽり」系が見られないのに対して，中部と西部では，おおむね一般的な「こっぽり」系統に属しているといえそうである．

5．おわりに

以上，山陰両県の昔話伝承の実態を概観してみた．大きく言えば山陰地方の伝承は，わが国のそれの縮図といってよいように思われる．県別では島根県での収録が，鳥取県よりも先行して行われていたが，時代が下るに従って，鳥取県でも関西や岡山の大学同好会などによる収録活動が盛んになってきている．

最後に，本論とは離れるが，民話を多くの人々に語る活動として行われている，語りのサークルについて触れておきたい．鳥取県では東部に「とっとり・民話を語る会」，「さじ民話会」．中部では今春，倉吉地区に周到な準備の末，「倉吉民話の会」が誕生したし，西部では「ほうき民話の会」があるが，ここはいくつかある同好会の連合体というスタイルで活動し，これらが相互の連絡を取り合いながら，全県的なまとまりを持っている．

これが島根県の方では，松江市にある「出雲かんべの里民話館」で民話を語っている「とんと昔のお話会」があり，他の団体も県下に存在しているものの，いずれも個別な活動にとどまっており，鳥取県のような団体間の交流は見られない．相互の交流を含めて活動が盛んであるという意味では，鳥取県の方が上である．

時代の流れからいって，家庭内伝承が消えつつある今，昔話の伝承はこのような民話サークルの活動に負うところが大きいだけに，われわれ研究者としてもそれらのグループの育成にも，積極的に関心を持ち協力していかなければならないと思うのである．

以上